

# 新潟地域広域市町村圏 アンケート調査結果から

## こんな組織の存在 『知らなかった』が半数にも

新潟市を中心として構成している、四市・七町・七村の「新潟地域広域市町村圏」圏内の住民、一般成人二万二千人、高校生二千二百人を対象に、一般十四項目、高校生十項目にわたって、アンケート調査を実施したところ、この組織の存在を「まったく知らない」と答えた人が四五%を占め、周知の不徹底が厳しく指摘されています。

この圏域が設定されたのは、昭和四十五年、国の広域市町村圏振興整備措置法に基づいて、昭和四十七年、組織化され、本県を十二圏域に分け、それぞれが圏域住民の福祉向上を図るため、広域的な事業推進へ、昭和四十八年総合的な方針に立つて計画書を策定し、これに沿っていろいろな事業を進めてきました。

興整備措置法に基づいて、昭和四十七年、組織化され、本県を十二圏域に分け、それぞれが圏域住民の福祉向上を図るため、広域的な事業推進へ、昭和四十八年総合的な方針に立つて計画書を策定し、これに沿っていろいろな事業を進めてきました。

暮らしやすい圏域の建設を目指し、いろいろな事業を他市町村と協力して進めていくものです。今日まで広域事業（本町が関係する）として行っている主なものは、新潟市舞濱に、「し尿処理場の建設」、亀田町には、「みみ処理場の建設」、新潟市小針から国道8号線に接続する、「都市計画街路の建設」などがあげられます。また、これから推進を図っているかなければならない大きな課題は「火葬場の建設」、不燃物処理施設

【注】  
圏域市町村名：新潟・新潟・白根・豊栄・安田・京ヶ瀬・水原・笹神・小須戸・横越・亀田・巻・西川・黒崎・味方・湯東・白濁中二口。  
今回、実施されたアンケート結果全項目を紹介するには、紙面の関係で、難しいため、主な項目を拾い、全圏域と本町を比較してみる。次のようになっています。

### 休日、夜間診療の充実拡充を

圏域全体では「休日、夜間診療所の整備充実」をがトップ、次いで「河川や排水路の整備」が二位、本町では、「総合病院の設置」、「休日、夜間診療所整備充実」、「公園緑地の造成」の順となっており、「総合病院の設置」が一位を示していることは、新潟市を近距離に控えているが、不便を感じていることがうかがえます。

### 施設・環境の整備をするための費用負担は

施設や環境の整備をするための費用負担については、「負担は増してもよいから施設の整備を図るべきだ」が全体で一八七%、「現在の負担の範囲内で、できるだけ整備すべきだ」が、六四%、本町ではやや高く、二〇一、六八九%を示し、費用負担があっても整備してほしいことがうかがえます。

### 住居指向は…

自分の住んでいる所の考え方の間には、「今の所に一生住みたい」と答えた人が、全体で四六・八%、本町は四一・九%とやや低く、都市化が進行している市部・町部が更に低い数字を示しています。

### 生活環境の変化は

生活環境の変化は、交通状態の変化に対し、道路網の遅れが指摘され、全体では買物環境はほとんどが良くなったと答えています。

### 望ましい

### 町の将来像

圏域全体では、農業都市へが三八・八%、住宅都市へ一八・七%、産業都市へ一五・二%、文教都市一・九%、工業都市二〇・五%の順となっており、本町では、住宅都市三四・六%、農業都市・産業都市、文教都市の順で、工業都市を求める声はわずか四二・二%と低く、大気の

## 高校生はこんな回答

高校生八のアンケートは、圏域二十九校、千二百余人を対象に「町の住み良さ」などを聞いてみました。主な内容は、次のようになっています。

### 市町村の住み良さは

全体的には「住み良い」または「どちらかといえば住み良い」が七六・三%に及び、「どちらかといえば住みにくい」または「住みにくい」一九・八%を大幅に上回り、圏域内の住み良さを認めているものと考えられます。

### 各市町村内の居住指向は

居住指向は、「住み続けたい」一三・八%、「どうなるかわからないが住み続けたいと思う」が三七・四%、「家の都合などで住み続ける事になると思う」が二五・五%、六六・七%が現在の市町村に住む事を希望している、うかがわれます。

### 住み良い理由 住みにくい理由

全体で、住み良い理由は多少のバラツキがあるものの「公害が少なく自然環境に恵まれている」、「通勤・通学・買い物などの日常生活に便利」があげられ、逆に住みにくい理由としては、「住宅事情・住宅環境が悪い」、「住んでいる人の人情や気質になじめない」などと答えています。

### まちむらの感想は

町村の感想は、「明るさ」、「清潔さ」、「暖かみ」などを良い評価としており、マイナス評価は「活気がない」、「特色がない」などの不満を示しています。

### 就職希望地域は

就職を希望する地域として「新潟市周辺」が二五・七%、「自分の住んでいる市町村」が一八・一%、

### 就職希望職種は

就職希望の職種については、十三の質問に分けて回答してもらいましたが「一般会社（経理事務部門）」が一七八%、「製造工場（技術部門）」が二一九%と多数を占め、地域別にみると、新潟市では第三次産業が第一、第二次産業を圧倒しており、本町でもその傾向は類似しています。

### 働き場所を増やすには何を望んでいるか

働き場所を増やすには、どんな施策を講じたらいかにに対し、「魅力ある企業の誘致」が三一・五%、「商店街を整備して、活気のある商業都市とする」が二九五%と、高い数字を占め、逆に「魅力ある農林業の振興」は全体で六・三%とかなり低い、これは近年、難しさを増している米作農業に対するけんを指示しているものと思われる。

### 圏域の発展方向は

この広域圏の発展方向は「自然と調和した環境の良い圏域」が四五・七%、「健康的な生活環境に囲まれた住み良い圏域」が二六%と高い数字を示し、これは豊かな自然とのふれあいを大切に、生活と調和した、健康的な生活環境を目指した圏域づくりを望んでいることがうかがえます。

以上が、昨年実施した新潟地域広域市町村圏のアンケート調査結果です。これを基盤に今年度、実施計画書を策定し、住みよい圏域づくりへ新たな一歩を踏み出すものです。

### 施策の優先度は

いろいろな施策の優先度の間に、対し、全体では「生活環境の整備」が二一・六%でトップ、「産業の振興」が二一・三%、「教育文化の向上」が一六・二%の順で、本町では「保健医療の充実」が一五・七%で、次いで「教育・文化の振興」、「産業の振興」となっており、総合的な環境の整備と充実を図ってほしいことがうかがえます。

### 圏域の将来像は

圏域の将来像については、「自然と生活の調和した環境の良い圏域」と答えた人が、全体で二四・一%、「健康的な生活環境に囲まれた住み良い圏域」が二八・五%、地場産業も発展し、企業誘致も進められた豊かな圏域」が二四・六%となっており、自然と調和した圏域像が求められ、同時に、生活環境の整備・産業の発展が望まれています。

